

GDN ブリスベン会合

Workshop: The Impact of Disasters on Household Welfare 開催報告

2008年5月14日

1. 会合：FASID主催
2. 日時：平成20年1月28日 午前10時より12時
3. 場所：Washington Room, Citigate Sebel Hotel, Brisbane Australia
4. 報告者：澤田康幸(東京大学准教授)

The Impact of Natural and Manmade Disasters On Household Welfare

5. コメンテーター：Chandra Athukorala (Australian National University)
6. ファシリテーター：湊 直信 (FASID 国際開発研究センター所長代行)
7. 出席者：約20名
8. 議論：

発表者の澤田氏は写真入のパワーポイントを使用して、発表を行った。概要は以下の通り。

- (1) イントロダクションとして背景説明、災害の定義、自然、技術的、人的な災害を対象に過去の災害の概要を説明。
- (2) アジア通貨危機、阪神淡路地震、インド洋津波等の実例を基に事前のリスクマネジメント、事後のリスク対処行動について分析結果を発表。
- (3) 相互保険、インデックス型保険の可能性等に関して分析結果を解説。
- (4) 自己保険の役割。ニカラグア、神戸の事例等により分析結果を解説。
- (5) 最後に災害の後の緊急の政策課題を提示。(モラルハザードの問題、不完全な情報の下での需要と援助供給のマッチングとターゲティングのあり方)

澤田氏の発表に対し、Athukorala氏は、基本的に本発表は重要なテーマを扱った有益なペーパーであり、理論と実証分析の良い調和が見られ、災害に関する適切な文献と最新の政策議論が解るとのコメントであった。その上で、研究対象が広すぎるので自然災害に焦点を絞る方が望ましい、途上国の自然災害マネジメントは先進国のそれとは異なる、災害に関する人々への教育・トレーニングの必要性を重視、インドネシア等の災害が起きやすい国は制度と手続きの構築が必要、等のコメントがあった。

更に、参加者と発表者、コメンテーターの意見交換、議論を行った。

以上